

新年のごあいさつ

仙北市長 田口 知明

仙北市民の皆さま、あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

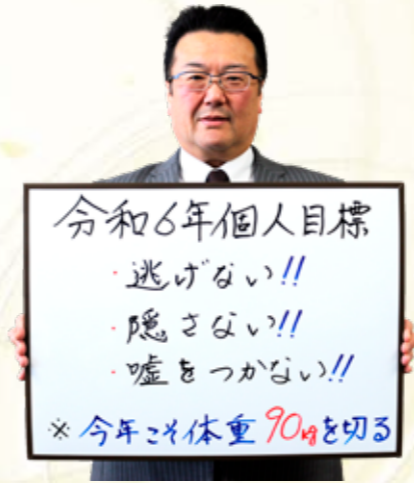
昨年を振り返りますと、春には過去最も早い4月8日に角館のソメイヨシノが開花し、7月には県内各地で豪雨災害に見舞われ、仙北でも農業や観光業で被害が出たほか、住宅では床上8棟、床下49棟の浸水被害が発生しました。7月から8月にかけては記録的な猛暑となり、仙北でも35度を超える日が続き、水稲をはじめ農作物への影響が出ました。そして過去に例が無い程に県内各地で熊の出没が連日相次ぎ、仙北市では残念ながら8件の人身被害が発生してしまいました。

このような異常気象や熊の出没など様々な影響や被害を受けた一年でしたが、反面何よりもよかったことは、2020年から世界中で感染が拡大し、多くの尊い命と私たちの日常生活を奪った新型コロナウイルス感染症が、ようやく収束したことでないでしょうか。これに伴い多くの規制が解除され、今までできなかった大人数での会食や、国内外への旅行、そして対面での会議など気兼ねなく行えるようになりました。まだ日本国内はもとより、仙北市においても観光業をはじめ多くの企業や市民の皆さまが多様なダメージをコロナ禍により受けており、今なおその影響があることは否めません。しかし、全国有数の観光地である仙北市へ訪れる観光客数は確実に回復してきており、昨年12月10日に秋田空港と台湾桃園空港を結ぶ直行便が週2便就航したことで、これからインバウンド需要の大幅な増加が見込めます。

市長に就任して初めて海外へ公務出張いたしました。訪れた台湾とタイのバンコクで仙北市内の観光地の知名度の高さと、旅行ニーズの多さに驚きました。特に田沢湖と1987年に姉妹湖協定を結んだ澄清湖のある台湾高雄市、そして玉川温泉と温泉協定を2011年に結んだ北投温泉のある台湾台北市では、仙北市の人気がとても高く、市長として非常に誇りしかったです。これは長年にわたり台湾の皆さまと厚誼を温めてこられた関係者の方々のご尽力の賜物であり感謝の念に堪えませんが、このすばらしいご縁を途切れさせることなく、今後もより友好関係を深めていきたいと思っております。

さて、本年は十干十二支でいいますと「甲辰（きのえ・たつ）」とのことで、どのような年になるのか調べてみますと、「これまで積み上げてきたものが実を結ぶ年」や、「春の暖かい日差しが大地全てのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年」になると記載がありました。2022年から現在も続いているロシアのウクライナ侵攻に加え、昨年10月にはパレスチナ・イスラエル戦争も勃発し、世界情勢が混とんとしていくなかで、円安も相まっての物価やエネルギー価格の高騰、そして異常気象による災害リスクも年々高まっており、市民の皆さまの日常生活においての不安や困難な状況は続いていますので、仙北市は今後も皆さまの命と安心・安全な暮らしを全力で守り支えてまいります。また、地域経済の守護神である地元企業の皆さまや農業従事者の皆さまの発展と振興への支援も拡充して、「稼げる仙北市」の実現にも注力いたします。そして、本年が皆さまの今までの努力や挑戦が結実し、成長できる年となるように願っておりますし、田沢湖の主である「辰子姫」はご自身の辰年である今年一年、今まで以上に仙北市民の皆さまを温かく見守ってくださるのではないかと思っています。

私が仙北市長に就任して新年のごあいさつは今回で3度目となりますが、仙北市を幸福度全国NO.1のまちにするために、引き続き財務状況の改善や施策の積極的な実施、そして行政改革を推進して参りますので、どうか市政運営へのご理解と共に、ぜひ市民の皆さまの声を聞かせてくださいますようお願い申し上げます。最後に参りますが、私の今年の個人目標を昨年同様に、「逃げない」「隠さない」「嘘をつかない」とさせていただきます。昨年一年の間には、恥ずかしながら何度も逃げたくなりましたし、楽をしたくて嘘をつくことが頭をよぎったこともありましたが、この個人目標を市民の皆さまにお伝えしていただくことで、自分の弱い気持ちや律してなんとか目標に反する行動を慎むことができました。今年も仙北市長として誠実に、正直に、前向きに、仙北市の幸福度を向上させるために全力で職責を果たしてまいります。



第2回 次の世代に向けた庁舎機能の移転・集約に関する住民説明会のお知らせ

仙北市は、市議会に次の世代に向けた庁舎機能の移転・集約を提案しています（内容は、広報せんぼく 12月号2～7ページに掲載しています）。

令和5年10月下旬には、市内3か所で住民説明会を開催しました。主なご意見は3～7ページに掲載していますが、より皆さまのご意見を伺いたいたため、2回目の説明会を下記の日程により開催します。

お住まいの地区にかかわらず、どこの会場にも参加することが可能ですので、ご来場ください。

また、田口市長が庁舎機能の移転・集約について語る動画を仙北市公式YouTube（ユーチューブ）チャンネルで配信していますので、ご覧ください。

| 開催日時 | 開催場所 |
|----------------|--------------------------|
| 1月16日（火）18:30～ | 田沢湖総合開発センター 1階 大集会室 |
| 1月17日（水）18:30～ | 仙北市役所角館庁舎 2階 201・202 会議室 |
| 1月19日（金）18:30～ | 西木総合開発センター 2階 大集会室 |

※参加にあたって申込みの必要はありません

田口市長のメッセージはこちらから↓



問合せ：仙北市企画部 企画政策課 ☎ 43-1112 FAX 43-1300
仙北市総務部 管財課 ☎ 43-1114 FAX 43-1300
仙北市代表メール：semboku@city.semboku.akita.jp



第1回 次の世代に向けた庁舎機能の移転・集約に関する住民説明会を開催

次世代に向けた庁舎機能の移転・集約に関する住民説明会を市内3か所で開催しました。

10月24日には田沢湖総合開発センター（85人参加）、26日には市役所角館庁舎（73人参加）、27日には西木総合開発センター（39人参加）で開催し、出された質問や意見を要約して報告します。

田沢湖会場の意見・質問要約

質① 今回の件は、新聞報道で市民が知ることになった。全市民に分かる形で周知すべきではなかったか。もう少し丁寧に時間を置いて全体に周知するような形の打ち合わせをしてもらいたかった。

答① 市民の声を市議会議員全員協議会で報告し、市議会とともに今後の方向性を定めていきたい。

質② 借入限度額ギリギリまで合併特例債を使うと、後が大変困難、財政が不安定になり、大変だという意見が多く出されていた。合併特例債があるからということでのよいのか。

答② 財政の健全性については、大変厳しい状況ではあるが、ふるさと納税でカバーしている状況にある。しっかりと協議しながら今後も事業を見直し、より効率的な運営を行ってきたい。

質③ 今後のいろいろなサービスで言えば、例えば国民健康保険の引き下げ、子育ての具体的な対策、学校教育の充実のために便宜を図るなど具体的なものを要望しているが一切出ていない。もっと具体的な説明がほしい。

答⑤ 本来の市民サービスに使うお金を次の世代が庁舎維持費用の捻出に汲々として進めることは本末転倒である。合併特例債は合併に資する施設の整備にのみ活用できるもので、残念ながら市民生活に直接寄与する給付金などには使えないものである。

質④ 水道、上下水道の会計で毎年15億円、去年の決算で15億6220万円の赤字計上している。くみ上げた水の50%以上が漏れている。13億円をもらうために時間がどうという前に上下水道を改良しろと言いたい。

答④ 10年かけて更新していく予定だが、その更新する予算を捻出するためにも、今回下水道の料金を改定させていただいた。市としてもしっかり計画に落とし込んでまいりたい。

質⑤ 田沢湖地域は災害時孤立する可能性が十分ある場所だ。その場合、田沢湖庁舎の職員だけで対応可能か。

部が田沢湖に移すことも考えられる。

質⑦ 令和22年度の人口で仙北市がやっていくことは無理だ。他自治体に吸収される。この事業はそうならないようにする一つの案だ。田沢湖庁舎がなくなることは、本当に残念だが仕方ない。時代の進化にしがみついても、慣れていくしかない。

答⑦ 人口減少によって今まで当たり前だったものが当たり前ではなくなっている。そのような時代に今我々は直面してきている。大変厳しい現実ではあるが、その現実から目を背けないで、しっかりと市政を進めていく。

質⑩ 上野庁舎は、角館庁舎から700メートルくらい離れているが、防災面から考えると遠いのではないか。角館庁舎に隣接した場所が妥当ではないか。

答⑩ 交流センターを改修して敷地内にもう一つ建てる案と、今の角館庁舎を3階にする案を検討した。交流センターについては敷地が非常に狭く、建物が特殊な形をしているため、今回提案した事業費よりも掛かり増しになる。角館庁舎の3階は構造的に無理だということがわかった。また、これらの場合、旧角館の解体

答⑤ 状況によっては田沢湖に災害対策本部を置く考えもある。

質⑥ バリアフリーは全ての庁舎に考慮してほしい。

答⑥ 田沢湖庁舎の2階も公民館として検討しているので、真摯に考えていきたい。

質⑦ 観光の魅力だけではなく、住む魅力、子どもが増えていくように、未来を考えてほしい。

答⑦ 高齢化が進み、交通弱者が出てきていることから、医療Maasに今取り組んでいる。また、行政Maasをこれから検討したい。

質⑧ 広報に庁舎機能の移転・集約の記事が載らなかったこと、説明会の回数が少ないことが疑問だ。

答⑧ 周知の仕方については、非常に重く受け止めている。

質⑨ 旧角館解体は、今の市の財政で行えばいい。30年後に影響するということであれば、それをどうして2か月で決めるのか。もっと時間をかけるべき。

答⑨ 11月の市議会議員全員協議会で、今回のいろいろな意見を議会に報告し、しかるべき時期に議案として上げていく。

に合併特例債が充てられない。

質⑨ 魚の遺産にならないようしっかり先を見据えた計画にしてほしい。

答⑨ そういったものがないように努めてまいりたい。

質⑩ 経済が衰退していくという考えだから、集約しなければならぬという議論になる。経済を成長させるためには、どうしたらいいのかを先に考えるべき。

答⑩ 非常にハードルが高いが、インターナショナルスクールの誘致、サテライトオフィスの誘致をしている。また、ふるさと納税でも頑張っている。前向きな政策も進めてまいりたい。

質⑪ もう少し丁寧に時間をかけて、説明してほしい。65歳以上の人口がずっと増えていく。65歳以上の人がここでの暮らしに満足いくような施策があった上で、今の事業が出てくると納得する。

(意見のみ頂戴したものを)

質⑫ 合併特例債に何かこだわりすぎている。もう一回くらいは説明会を開いてほしい。

答⑫ またもう一度説明会を通じて皆さまからも質問いただきたい。

質⑩ 上野庁舎に集約しなければ、市民サービスができないのか。庁舎よりもやるべき事業がたくさんある。庁舎移転も含めて今後の仙北市がどのようなになっていくのか、我々は見えていない。

答⑩ 今時代はデジタル化を進め、デジタルの力で皆さんにサービスを落とさない形で、この地域を存続させていくことが大きな使命である。また、若者が帰ってこないことも幸福度を上げてここにいる人たちが皆さんが幸せであれば戻ってくると思えている。今、その財源がなかなか確保できていないが、子どもたちの教育環境、子育て環境も整えながら仙北市を次の世代に渡せるように努力してまいりたい。

質⑪ 若者にどんどん発信して、このような会に参加して意見をもらう方がよい。

答⑪ いろんな形で説明する機会を設けさせていただきたい。

質⑫ 田沢湖庁舎の耐久年数をあと30年増す工事が可能か、検討したか。

答⑫ 30年後にどれだけお金がかかるかということ想像できて、責任を持って金額を提示できる業者はいないと考える。

角館会場の意見・質問要約

質⑬ 広報への掲載やパブリックコメントをやらないのか。

答⑬ 今のところ予定はないが、皆さまのご理解を得るために、どのような方法が必要か、もう少し時間をかけるべきかというところを見定め、今後進めていきたい。その中で、例えば広報で計画を周知するということも考えている。

質⑭ 一度でも議会の否決などで後ろ倒しになったときに、この工期で間に合うのか。

答⑭ ある程度余裕を持った工期に設定しているので、相当のことがない限りは今回の工期で間に合う。間に合わない場合合併特例債が使えないという事態になるため十分に注意して進めたい。

質⑮ 出張所になったときの市民へのデメリットは何か。

答⑮ 国土調査業務での閲覧や空き家の相談、納税相談が田沢湖でできていたものが、上野庁舎になる。ただし、田沢湖市民センターを拡充してこれらをフォローしたいと考えているため、大きな影響はないと考えている。

質⑬ 角館庁舎を最後30年後に一本化するときに、角館庁舎のポリシーで業務が全部間に合うのかどうかの検討、計画をしているか。

答⑬ 人口と比例して職員も減る見込みである。これまで通りの庁舎のあり方や職員の体制を維持していくのは、非常に厳しい。デジタルを使ったりの方が、さらに発展していると考えるので、そういうものにシフトしていく必要がある。

質⑭ 行政側が市民に与えるためのサービスはメリットがあると思つたが、市民がサービスを受けたいときのメリットはあるか。

答⑭ 庁舎にお金を使うのはこれで最後にし、市民の幸福度を上げるための予算を捻出するための今回の提案である。

質⑮ 集約された場合、会議が全部角館だけではなく、田沢湖、西木でも行ってほしい。

答⑮ 皆さんからの声を反映させた上で、今後の体制について検討していく。

質⑯ 災害のときに田沢湖が取り残されるのではないかと不安だ。

答⑯ 場合によっては、災害対策本

質⑯ スピーディにしっかりと余裕を持って終わらせてほしい。

答⑯ なるべく早く早くスタートして、なるべく早く確実に完成させたい。

質⑰ あまり希望がない街だなと思いつながり今暮らしている。今急いでも借金はやはり将来に残されていくのではないか。もう少し時間をかけて、どんな地域作りをしていきたいのか、みんな納得した上で進めていく必要があるのではないか。中心部が失われていくときに地域も賑やかさが失われ過疎化されていくのではないか。

答⑰ 確かに公債の借入れにはなるが、それによって得られる財政メリットが大変大きい。これをやることで仙北市民にメリットもあると確信して提案させていただいた。また、移転集約した場合の事業費約19・9億円、移転集約しない場合約9・9億円、これは移転集約することにより約19・9億円の建設費などの商売が増えることなど、決して夢がない訳ではない。公債は増えるが、お金の循環が生まれることを考えていただければありがたい。

質⑱ 国に対しても交付金をもっと上げろという声を出すべきではないか。

答⑱ 中央省庁をまわって要望はいくらでもやっていきたい。

